

平成30年度第1回 S G H連絡会<第二部>

外部事業活用事例

イオン1%クラブ
アジア・ユースリーダーズへの生徒派遣

2018年6月29日

お茶の水女子大学附属高等学校

研究部 玉谷直子

アジア・ユースリーダーズとは

- ・ 2010年からイオン1%クラブが実施してきたプログラム
- ・ アジアの数カ国の高校生・大学生が参加
 - * 2017年度は中国、インドネシア、日本、マレーシア、タイ、ベトナムの6カ国から53名が参加
- ・ 8月末に6日間の日程で実施（2017年）
- ・ バックグラウンドの異なる同世代の若者が、英語を共通言語として、ひとつのテーマで議論を重ね、問題解決力や自発的な行動力を高め、グローバル感覚を養い、価値観の多様性を学ぶことを目的とする。
- ・ テーマ　～2016年：「環境」　2017年～2019年「食と健康」



SGH 事業上の 位置づけ

お茶の水女子大学附属高等学校
スーパーグローバルハイスクール構想

女性の力をもっと世界に！
目指せ 未来のグローバル・リーダー
国際社会の平和と持続可能な発展に寄与する人材

取組の実施・評価
1年目～3年目

改善と発展・発信
4年目～5年目

高大接続
お茶大

高大接続
東工大

お茶の水女子大学の
(グローバル人材育成推進事業実施中)
全資源の日常的な活用

大学公開授業の活用

外国語 e-learning システム

大学図書館の活用
グローバルスタディーコーナー

大学の留学生・学生
チューターの活用

サマープログラム
(英語・日本語)

学外の組織との連携

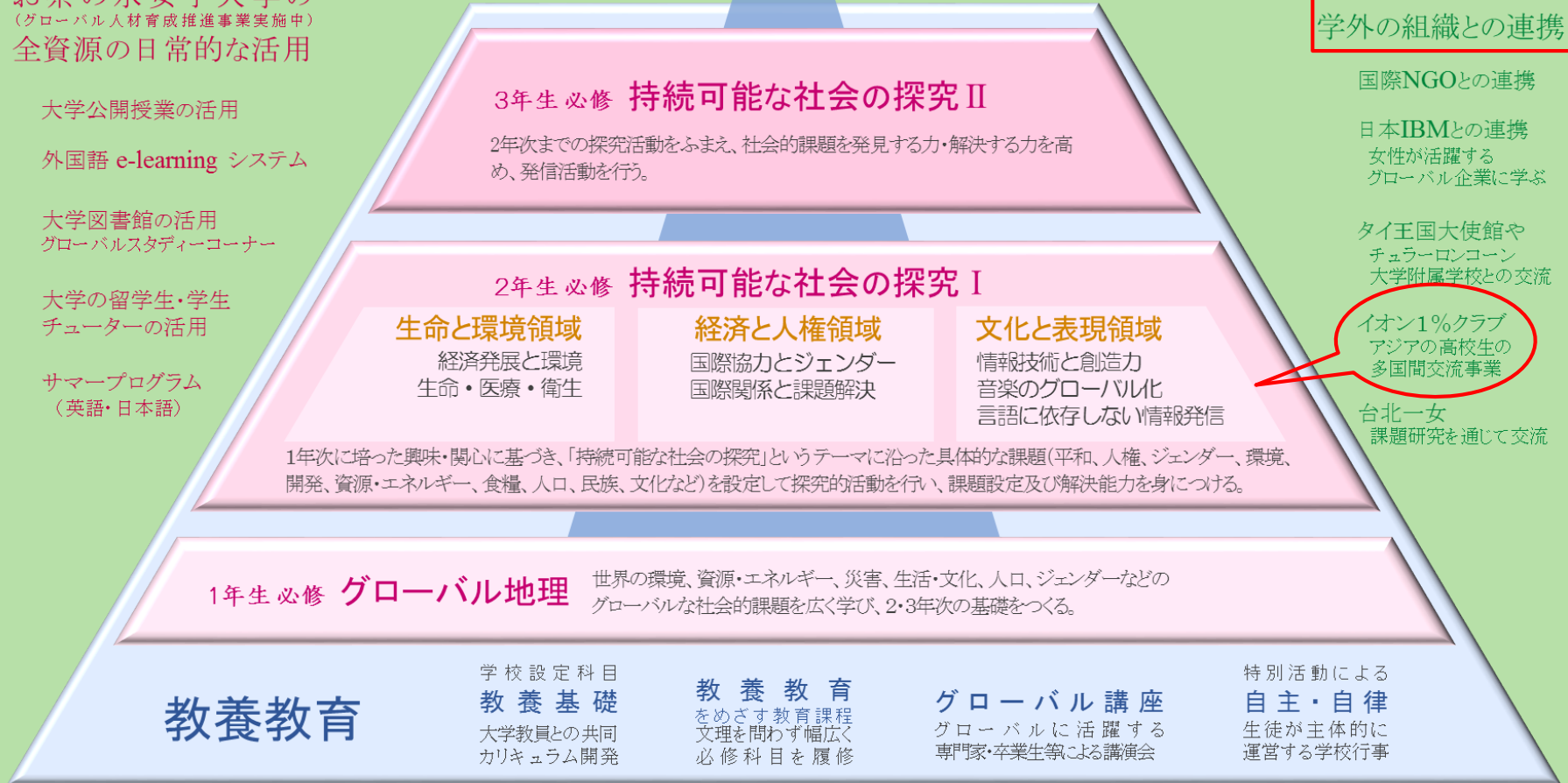
国際NGOとの連携

日本IBMとの連携
女性が活躍する
グローバル企業に学ぶ

タイ王国大使館や
チャラーロンコーン
大学附属学校との交流

イオン1%クラブ
アジアの高校生の
多国間交流事業

台北一女
課題研究を通じて交流



教授陣 国際交流 チーム グローバル 教育センター グローバル 協力センター 外国語 教育センター リーダーシップ 養成教育研究センター グローバル人材 育成推進センター

お茶の水女子大学の全学的な支援・連携

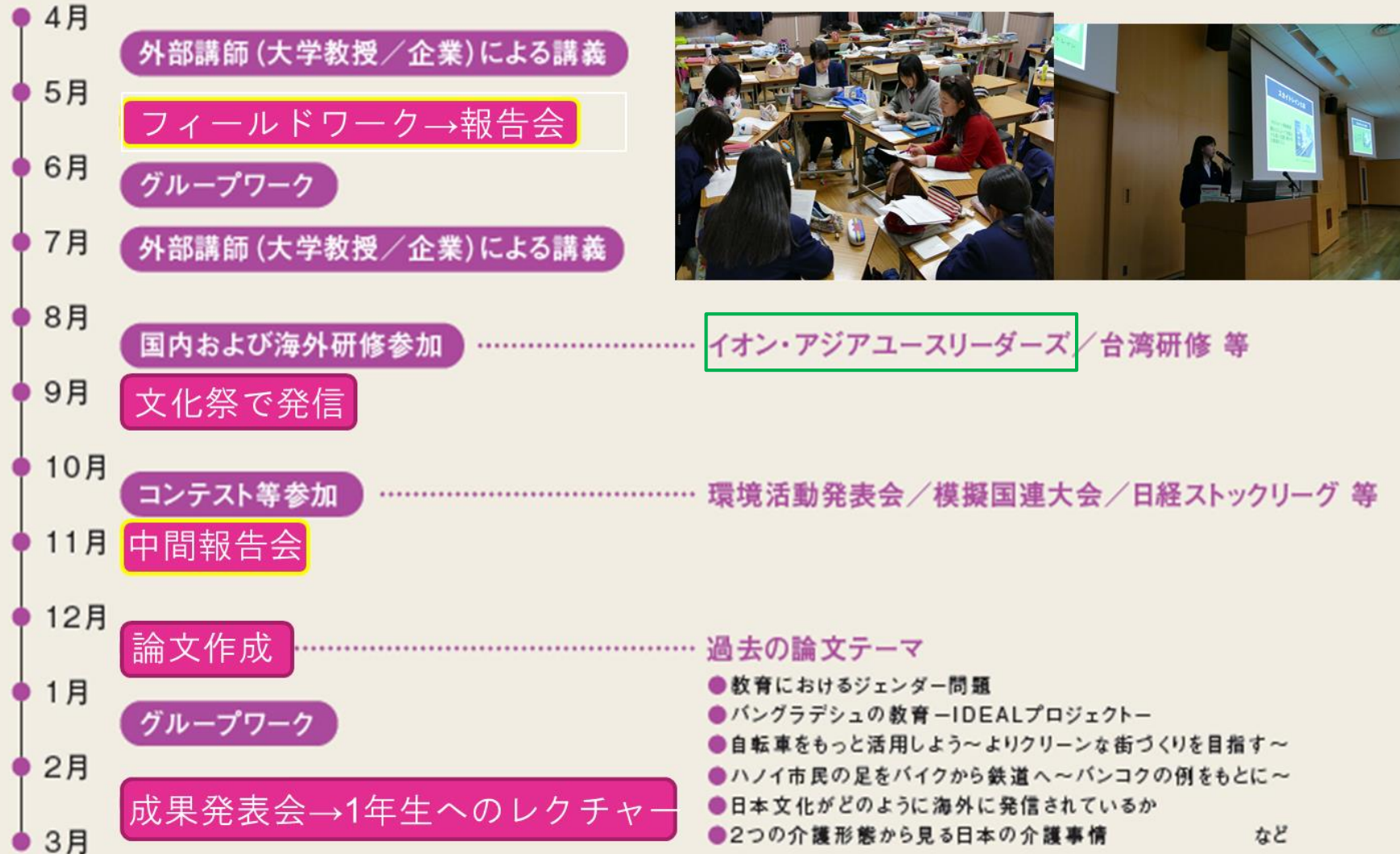
SGH カリキュラム上の 位置づけ

海外体験，海外の同世代との交流体験の機会。

探究的な学習の一環として活用できるよう指導している。

学校主催の台湾研修参加者は参加できない

持続可能な社会の探究 I の主なスケジュール



実施のねらい

- ・ 海外体験やアジア各国の高校生との交流の機会を通して、グローバルな社会課題への関心をさらに高める。
- ・ 異なる文化的・社会的背景を持つ海外の高校生とともに課題を解決するための具体策を検討したり、異質な意見をまとめたりする経験を通して、公共性と倫理性、リーダーシップを備えた未来のグローバル・リーダーの育成を図る。
- ・ プログラム参加生徒からの報告により、他の生徒の課題意識やグローバルな活動への意欲の向上をめざす。

実施スケジュール

3月中旬 参加生徒募集

3学期末 参加生徒（5名）の決定 * 台湾研修応募締め切りは始業式

4月～ 事前学習・英会話 45～90分／週

- ・開催国&参加国について
- ・テーマに関する探究学習

7月 保護者説明会, 勉強会 ... イオン主催

8月 プログラムに参加

9月 文化祭にてポスター発表

11月 LHRの時間に2年生に向けて報告

12月 1年生を対象とする海外研修報告会にて報告

参加者の選考について

応募時の書類

- ・イオンに提出する書類（応募理由書等）の日本語版

選考

- ①理由書の内容...課題意識, 意欲
- ②学校生活への姿勢等
- ③英語力, 成績等

* 英語力最優先ではない, 英語力はプログラム参加により磨いてほしい

事前学習

①英会話

45分 or 90分／週 担当：外国人講師・お茶大の留学生
(SGH予算で雇用)

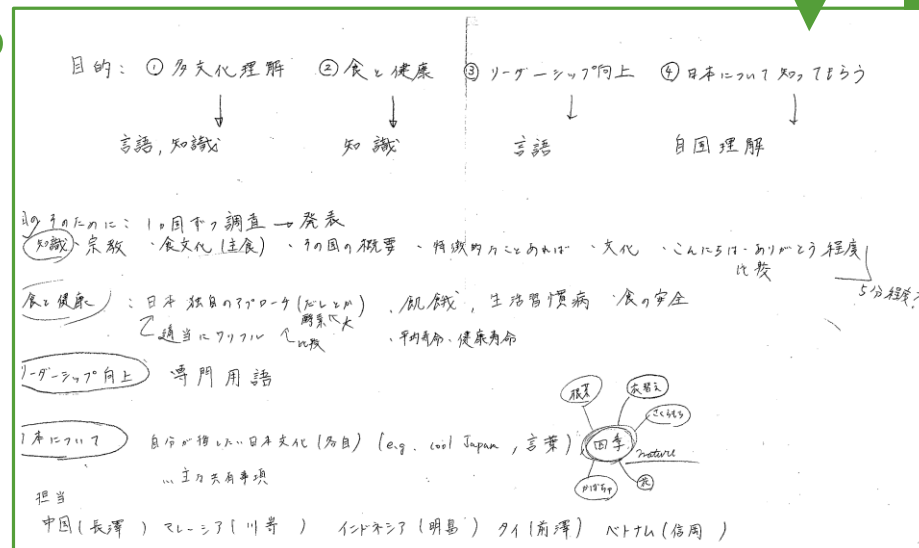
②生徒主体の事前学習

- ・事前学習の計画作成 目的・内容・日程等を自分たちで考える
- ・開催国及び参加国に関する基本的な情報を知る
- ・テーマに関する学習
 - イオン主催の勉強会で考察を深める
 - 不足していた部分について学習を進める

【1、目的】
ネイティブの先生によるスピーキングなどの実際に使える英語の授業レッスンや、参加国の文化や現状などについて知ることで、プログラム参加時に各国の学生と円滑にコミュニケーションを取りより実のあるディスカッションにすること。またインドネシアと日本を中心とするアジア各国の食と健康に関する政策や課題について参加メンバー5人で調査、発表、ディスカッションをすることでプログラム内の様々な活動を通して得られる知識をより深められるようにする。

【2、内容と計画】
週2回のテリーサ先生による英語のレッスンと週1回の知識共有の時間を持っている。英語のレッスンはテリーサ先生のご指導によりメンバー5人で様々なことに対して意見を英語で話し、ディスカッションをする練習をしている。
週1回事前学習では10回の中で各国の状況と食育についての事前学習を行っている。具体的には以下の計画に基づいて行っている。

①各国の文化宗教	①から⑤はメンバー5人で日本以外の参加国5か国を割り振り事前に調べその内容をそれぞれ英語で8分間発表、日本語も含めて2分で補足、30分間でその日の発表から一つテーマを絞りディスカッションを行う。⑥も基本は5回と同様で割り振る内容を日本の伝統的な文化とサブカルチャーについてに変えている。これらの学習によって参加国6か国の知識を入れる。
②各国の経済	
③各国の歴史	
④各国の衛生・健康	
⑤各国の食育	
⑥各国の日本の文化	
⑦～⑩食育	⑦から⑩では前の6回、特に⑥で得た知識をもとに食育に関するテーマを消費者、企業、政府の3つの視点でディベートを行う。この学習は企画書にあったディスカッションのフレームを参考にプログラムに合わせた形で練習し、より多角的な視点で課題を見られるようにする。



プログラムへの参加

【2017年度・日本で開催】

1日目 オリエンテーション, 基調講義Ⅰ, ウェルカムパーティー

2日目 食育体験学習, イオン茨城牛久農場訪問

3日目 基調講義Ⅱ特, 別講義、ディナーセミナー

4日目 **和食調理体験**, イオン碑文谷店来客へのインタビュー

5日目 **グループディスカッション**

6日目 成果発表会, 表彰, フェアウェルパーティー

* 生徒は毎日の活動記録を作成し、
帰国後に提出する。



↑ シアムパーク見学 (2016年)



成果の発信 ①HPでの活動報告（終了直後）その1

<http://www.fz.ocha.ac.jp/fk/report/sgh/2017/doo4822.html>

公益財団法人イオンワンパーセントクラブ主催のアジアユースリーダーズ2017に、生徒5名が参加しました。このプログラムは、バックグラウンドの異なるアジア各国の高校生が、英語を共通言語としてひとつのテーマで議論を重ね、問題解決力や自発的な行動力を高めるとともに、グローバル感覚を養い、価値観の多様性を学ぶことを目的としています。

今年度は「食と健康」をテーマとして、8月21日（月曜日）から26日（日曜日）に東京で開催されました。中国、インドネシア、日本、マレーシア、タイ、ベトナムの6カ国から53名の高校生が集まり、「食育」に関する専門家の講義や体験学習を通じて考察を深め、問題解決策を提言しました。

以下は、参加した生徒による活動報告です。

《21日 Orientation / Lecture I / Welcome Reception》

オリエンテーションでは自己紹介やグループのリーダー決めなどを行いましたが、自分をアピールする他国の生徒の姿に刺激を受け、私たちにもそうした積極性が必要だと思いました。日本チームはウェルカムパーティーで日本舞踊を披露し、日本の文化の一端を紹介することができました。また、事前学習として参加国の一般的な情報も学んでいたため、各国の参加者との会話がはずみました。



成果の発信 ①HPでの活動報告（終了直後）その2

<http://www.fz.ocha.ac.jp/fk/report/sg/2017/doo4822.html>

《25日 Group Discussion》

5日目はホテルでチームごとに、翌日のプレゼンテーションに向けたディスカッションと準備作業を行いました。意見がぶつかり合うことも多く、チームメンバー全員の意見を取り入れることが難しかったです。文化の壁も厚く、同じ国の人であれば通じるはずの共通の認識がないために、自分の意見がなかなか理解してもらえないこともありましたが、しかし、その分、実に多様な意見が集まり、充実した議論が行われました。準備段階ではそれぞれが得意な分野を生かし、チーム全員がそれぞれの良さを発揮することが出来ました。これらの活動を通して、異文化交流の難しさと素晴らしさを体感しました。



成果の発信

- ②文化祭での活動報告（9月中旬）
- ③LHRを活用した2年生への報告（10～11月）
- ④「海外研修報告会」での1年生への報告（12月）
- ⑤「持続可能な社会の探究Ⅰ」成果物への活用（冬休み～）

ex. 「ウナギを持続可能にするために」(2017年)

→ 「高校生ポスターセッション
in 京都大学」で発表

↓ 生徒が作成したポスター



参加生徒の声 【印象に残った活動・有意義だった活動】

- ・プレゼンテーション

「しっかり練習すればあまり緊張しないとわかり自信になった。」

- ・ディスカッションから発表までの活動

「ディスカッションにはほぼ参加できなかったが、英語の聞き取り能力や理解能力は向上したし、パワポの作成には英語でかかわれた。」

- ・グループディスカッション

「予想以上にいろんな意見が出てきて視野が広がった。」

「積極的に動かなければならず、自分の力を発揮できたと思う。」

「日本人同士と異なり、お互いの意見をぶつけあう様子に異文化交流を実感した。」

生徒の声 【学んだこと・得られたこと・成長した点】

- ・ 人脈・友達。日本、アジアの各地に友人が作れたのはよかった。SNSで連絡をとり続けたい。
- ・ 他国の同年代に比べて英語力がかなり不足していると気づき、モチベーションがあがった。
- ・ 英語力。みんなが話しかけてくれるので、上手く話せなくても一生懸命返そうとしていたら、自信がついた。
- ・ まだまだ不足しているが、積極的に参加しようという姿勢。
- ・ 異なる環境で育った人を理解しようという姿勢や、バックグラウンドを知ることの大切さ、一緒に何かをする方法。

本校では以下の成果発信を予定しております。

2018年11月14日（水）13時～15時

第3回SGH公開授業

- ・ グローバル地理
- ・ 持続可能な社会の探究 I ・ II

2019年3月16日（土）10時～15時半

2018年度SGH成果発表会

- ・ 生徒による探究活動の成果発表
- ・ 研究協議等

皆様のご来場をお待ちしております。



← 昨年度の成果発表会の様子